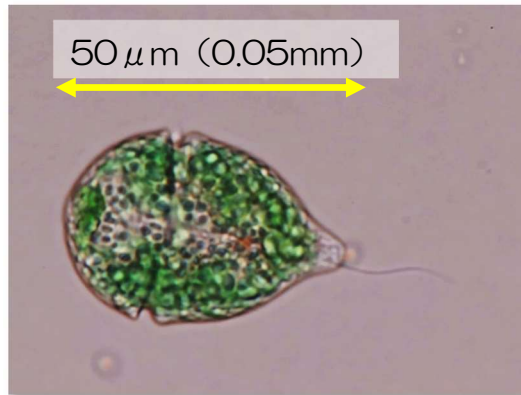
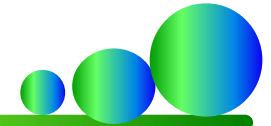
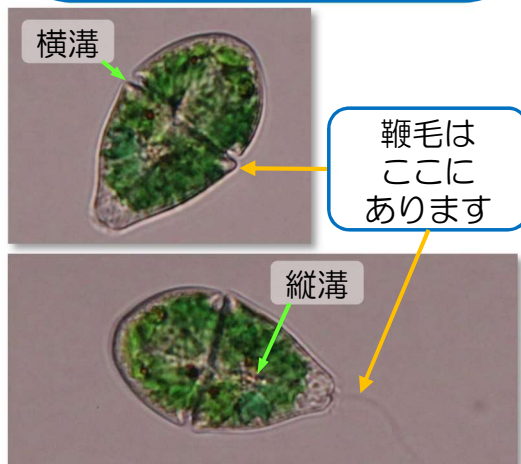


# 葉緑体を盗んだヌスットオビムシ



新川（2021年9月15日）

動画では、ヌスットオビムシが泳ぎ回る様子や、鞭毛が動く様子が確認できます。



土浦沖（2022年11月9日）

ヌスットオビムシの「ヌスット」は、日本語の「盗人」のことで、葉緑体を盗むことに由来しています※1。

ヌスットオビムシ自身は、葉緑体を持っていませんが、クリプト藻を取り込み、一時的な葉緑体として使用して光合成を行っているそうです。

細胞を横に取りまく溝（横溝）とそこから後方へ延びる縦溝があり、溝に沿ってそれぞれ1本の鞭毛（べん毛）が伸びています。この鞭毛を使って、回転しながら水中を泳いでいます。

霞ヶ浦でもよく見られる渦鞭毛藻の1種で、先月（2022年11月）は、土浦沖や土浦港で数多く観察されました。

また、新川では、2021年9月に大発生し、川の水が緑色になっているのを当センターで確認しています。

※ヌスットオビムシ属の学名は、「Nusuttodinium」であり、日本の研究者により、2014に新たに提案された属名です。それ以前は、ハダカオビムシ属に含まれていました※2。

○動画は、2021年9月15日に新川で採取した河川水、及び2022年11月9日に霞ヶ浦の土浦沖と11月1日に土浦港で採取した湖水で観察されたものです。

出典 ※1：「プランクトンハンドブック淡水編」総合出版,2018

※2 Takano, Y., Yamaguchi, H., Inouye, I., Moestrup, Ø. and Horiguchi, T. 2014. Phylogeny of five species of Nusuttodinium gen. nov. (Dinophyceae), a genus of unarmoured kleptoplastidic dinoflagellates. Protist 165: 759-778.